

平成24年度学校自己評価表《最終評価》

鳥取県立鳥取東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	さまざまな教育活動を通して、21世紀の鳥取そして日本を支える人材の育成に努める。	今年度の 重点目標	「しのめプロジェクト」の推進 1. 学力向上のための教科学習の充実と授業力向上 2. キャリア教育の充実 3. 文武両道に根差した部活動の振興・充実 4. 「規律ある自由」の実践と健康・安全管理の充実
-------------------	--	--------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (2) 月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 学力向上のための教科学習の充実と授業力向上	①自宅学習時間を増やすとともに、学習の質を高める。	○1・2年生の家庭学習が量的に要求水準に達しない傾向がある。 ○日常的に図書館を利用する生徒が少なく、学習における基盤に弱さがある。	○生徒が自己の効率的な学習習慣・学習方法を確立する。 ○家庭学習を毎日計画的に行っている生徒が60%以上。 ○図書館を恒常的に利用する生徒が50%以上。	○1・2年生に対し、予復習の課題を徹底指導(具体的且つ明確に周知)。 ○スタディサポートや自宅学習時間調査を活用し、生徒一人一人の学習実態に応じた有効な指導。 ○意欲喚起につながる面談の実施。 ○朝読書や図書委員会活動の活性化を通じて読書を啓発する。	◇学習習慣・学習方法が確立(生徒アンケート) (7月)1年31%、2年45%、3年51% (1月)1年37%、2年51% ◇家庭学習を毎日計画的に行う(生徒アンケート) (7月)1年38%、2年52%、3年63% (1月)1年37%、2年50% ○課題の取り組み状況は良い。小テストや面接等のこまめな指導が奏功し、学習習慣・学習方法の確立は進みつつある。 ○読書時間の確保が難しい上に、工事による図書館の利便性低下も影響し、恒常的利用は2割程度にとどまった。	C	○課題や予習の在り方を工夫する。 ○各学年・各教科で「この一冊」という教材を選定し、徹底的にマスターさせる。 ○朝読書に継続的に取り組む。
	②各教科ごとに学力実態を把握・分析した上で、学力向上プログラムを実践し、授業の質を高める。	○3年間の各時期において到達すべき学力、その育成プログラム、指導法等は各教科ごとに概ね共有されている。 ○授業に対する満足度は高いが、学問への興味・関心の高まりは十分とは言えない。	○学力層に応じた適切な教科指導により学力向上が図られる。 ○授業に対する生徒の満足度が90%以上。 ○授業を通じて学問に対する興味・関心が高まると感じる生徒の割合が70%以上。	○定期的な進路指導委員会で学力を分析し、それをもとに教科ごとの有効な指導プログラム・取り組みを実施。 ○授業アンケートを授業の質的改善に活用。 ○授業力向上に向けた研修・研究活動の充実。	◇授業についての満足度(生徒アンケート) (7月)1年76%、2年88%、3年90% (1月)1年84%、2年89% ○進路に対する満足度は高く、ほぼ目標に達している。学問に対する興味関心は、各学年とも目標を上回っている。 ○授業力向上のための各種研修に多数の教員が参加し、授業改善に活かした。	B	○授業アンケートや定期考査の分析結果を活かした授業改善を継続実施する。 ○進路指導委員会で学力分析と学習指導の在り方の検討を進める。 ○授業力向上のための校内研修を推進する。
2 キャリア教育の充実	③自立した学習への取り組みにつながる進路指導の充実。	○自立した学習への取り組みが進路決定期までずれ込む生徒が少なくない。	○(1年生)自分の適性を知り進路目標が持て、進路実現のために必要な学習内容・学習方法がわかる。 ○(2年生)職業や大学等の具体的な進路目標が持て、大学(学部・学科)の教育内容や入試制度がわかる。 ○(3年生)適性に応じた進路目標が設定でき、進路実現のための必要な学力がわかり、身につけようとしている。	○生徒の進路意識を高めるための各種行事(「鳥取学」校外学習、進路講演会、進路LHR)の内容・時期を工夫。 ○進路選択や学部・学科研究に「夢ナビプログラム」や言語技術教育の手法を取り入れた進路資料を有効活用する。	◇左記の目標の達成度(生徒アンケート) (7月)1年41%、2年56%、3年80% (1月)1年47%、2年69% ○LHRや総合的な学習の時間を利用した進路指導により、学年が上がるにつれて進路意識が向上している。1年では、生徒の意識を恒常的に高めることが課題である。	C	○総合的な学習の時間等における行事を精選し有効性を高める。 ○校内外の教育力を有機的に活用した進路プログラムを組み立て、生徒が高い志を持てるような進路指導を行う。 ○面接等を活用し、各進路プログラムで高まった生徒の進路意識を持続させる。
3 文武両道に根差した部活動の振興・充実	④学習と部活動の両立。	○学習と部活動をうまく両立させていると感じている部加入生徒(1・2年)が平成23年度末56%。	○学習と部活動をうまく両立させていると感じる生徒が70%以上。	○学級担任・教科担任と顧問の連携した指導の実践。 ○家庭学習を計画的に行う時間が確保されるよう、効率的な部活指導を展開。	◇学習と部活動の両立(生徒アンケート) (7月)1年42%、2年60%、3年59% (1月)1年51%、2年64% ○学習と部活動の両立は徐々に進んでいるが、必要な家庭学習時間を確保できていない生徒も多い。	C	○両立するよう時間の効率的活用を促す。
4「規律ある自由」の実践と健康・安全管理の充実	⑤開校以来の理念「規律ある自由」の実践。	○「規律ある自由」の理念の浸透が不十分。 ○身だしなみや、言動についてはさらにレベルアップが必要。	○自律した生活態度を身に付けた生徒集団を作る。	○「規律ある自由」の理念の浸透を図る機会を設ける。 ○「清潔・端正」の徹底のため、全教職員一致した指導の展開。	◇「規律ある自由」の意味を理解し実践(生徒アンケート) (1月)1年72%、2年79% ○生徒の規律や生活態度は悪くないが、自発的、自覚的な生活という点では不十分。 ○全職員の一致した指導が十分とはいえない。	C	○自律・自立に向け、生徒会を中心とした活動を工夫する。 ○課題を職員同士、生徒と職員で共有し、「自覚」に基づく生活指導を行う。
	⑥健康・安全に関する自己管理のできる生徒の育成。	○睡眠を中心とした体調自己管理が不十分で、保健室来室生徒が多い。 ○学校外でのケータイ・インターネットの使用に改善すべきところがある。 ○自転車乗車マナーについての指摘を受けることがある。登下校時の小さな自転車事故が数件ある。	○各家庭における生活習慣(起床時間、自宅学習開始時間、就寝時間等)を改善する。 ○ケータイ・インターネットの望ましい使用マナーを身に付ける。 ○自転車マナー向上と登下校時の事故減少。	○健康・安全についてPTAと協力した取り組みの実施。 ○ケータイ・インターネットに関する「高校生フォーラムモデル事業」に、生徒会を中心に取り組む。 ○登下校指導、校門指導を適時実施。	◇起床、学習、就寝の時間を決めて実践(アンケート) (7月)1年52%、2年66%、3年63% (1月)1年48%、2年56% ○1年生対象のQCカード実施、PTAと連携しての講演会開催や保健室だよりへのメッセージ掲載により生活習慣改善への意識づけができた。 ○「高校生フォーラムモデル事業」に組み込み、成果を県主催フォーラムで発表。 ○自転車の接触事故が多発。交通安全への意識向上が求められる。	C	○生活習慣の改善に向けて生徒保健委員会の活動を充実させる。 ○交通安全講習会を行う。 ○登下校時の安全指導を定期的に行う。

評価基準 A: 十分達成 (100%) B: 概ね達成 (80%程度) C: 変化の兆し (60%程度) D: まだ不十分 (40%程度) E: 目標・方策の見直し (30%以下)